

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 4 年 6 月 30 日	
鳥取市長 様	
提出者	
住 所 鳥取市南隈 255	
氏 名 やまこう建設株式会社	
代表取締役社長 岡田幸一郎	
電話番号 0857-28-5511	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	やまこう建設株式会社
事業場の所在地	鳥取県鳥取市南隈 255
計画期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合建設業
② 事業の規模	昨年度元請け完成工事高 3,540,289 千円
③ 従業員数	80 名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	全ての産廃を委託契約により処理

（日本工業規格 A列4番）

（第2面）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図)	
別紙のとおり	

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】 別紙のとおり
	産業廃棄物の種類
	排出量 t t
	(これまでに実施した取組) 1. 着手前の工法の検討により排出量を抑制 2. 施工途中の工法変更により排出量を抑制 3. 生コンクリートの使用数量を綿密に計算しロスを削減
② 計画	【目標】受注工事量や内容により変わるため計画数値は定められません。
	産業廃棄物の種類
	排出量 t t
	(今後実施する予定の取組) 1. 産業廃棄物の抑制の有効利用に関する教育 2. 廃棄物処理法の改正に関する教育 3. SDGs に関する教育 4. ISO14001 の運用による廃棄物抑制意識の高揚

産業廃棄物の分別に関する事項	
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 作業所ごとに産廃ボックスを設置し分別

◎ 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 作業所ごとに産廃ボックスを設置し分別 産業廃棄物の分別の重要性に関する教育
------	---

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
◎ 現状	【前年度（令和3年度）実績】 なし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
◎ 計画	【目標】 なし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
◎ 現状	【前年度（令和3年度）実績】 なし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
◎ 計画	【目標】 なし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t

	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】 なし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】 なし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者へ の 処理委託量	t	t
	再生利用業者へ の 処理委託量	t	t

		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 不適切な廃棄物処理の罰則に関する教育 廃棄物処理法の改正に関する教育			

(第5面)

◎ 計画	【目標】受注工事量や内容により変わるため計画数値は定められません。			
	産業廃棄物の種類			
	全処理委託量		t	t
	優良認定処理業者への処理委託量		t	t
	再生利用者への処理委託量		t	t
	認定熱回収業者への処理委託量		t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t	t
	(今後実施する予定の取組) 産業廃棄物の分別の重要性に関する教育 SDGs、ISOに向けた教育			
※ 事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)◎ 欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)◎ 欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)◎ 欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※ 欄は記入しないこと。

現在当社機能組織図 (ISO9001・ISO14001 関係組織図)

令和2年6月1日現在

